

『三葉集』

田漢・宗白華・郭沫若著

郭沫若より田漢への手紙 その1－3

(原題：「郭沫若致田漢」)

顧 文*

岩佐 昌璋**

Kleebatt by Tian Han, Zong Baihua & Guo Moruo

Letters to Tian Han from Guo Moruo No. 1－3

With Annotation

by

GU Wen, IWASA Masaaki

その1

寿昌兄：

僕の大学は毎日の授業が、午前八時から始まり、午後四時に終わります。午前中は講義、午後は実習で、朝から晩まで少しの暇(ひま)もありません。午後、授業が終わって家に戻ると、頭の中には何にも残っていない、ただいくらかの倦怠が残ります。しかし、僕は今日本当に幸せです。朝大学に行った時、宗白華兄からの手紙を受け取りました。そのときすでに嬉しさが抑えきれないほどでした。午後、放課後に、こんどはまた君からの手紙を受け取りました。--- おお、寿昌兄！僕の心弾む愉快的な気持ちは、ただ君の想像にお任せするほかありません。僕は、本当にそれを表現する適切な言葉を見つけだせないのです。寿昌兄！僕は君に対して本当に申し訳ないと思います。白華にはもっと申し訳ないと思っています！白華兄から僕に最初にきた手紙は、先月中旬の頃でし

た。彼は、手紙の中でこう書いていました。「自分には田漢という友人がいて、欧米文学に深い造詣があり、君とは意気投合できる人です。」---僕も君の言い方を真似ましょう【補注1】。白華はそんな風に言うけれど、いったいはたして僕が君と同じ意見かどうか、そもそも一つの問題です。---彼は、僕たち二人の手を携えて東方の未来の詩人となってほしいと願っています。彼は、最初の手紙で君を紹介しましたが、直ぐ二回目の手紙で僕にこう催促しました。【補注2】「寿昌と会いましたか？……もし、会ったのなら、君の新しい詩作を彼に託してもっと沢山送ってきて下さい！」そしてすぐまた三回目の手紙が来て、こう書いています。「田漢が以前上海に居た頃、僕は田漢にこんなことを言ったことがあります。『君は文学から徐々に哲学に入ってきたが、僕は恐らく哲学から徐々に文学で終わるだろう』」。白華は、また“僕たち三人の道路は同じだ”と言いました。

* 東海大学経営学部観光ビジネス学科教授

** 九州大学名誉教授 日本郭沫若研究会会長

白華は、こんなに大切に僕を扱ってくれ、こんなに懇ろに僕に素晴らしい友人を紹介してくれています。以前僕は『少年中国』で Whitman を紹介した君の鋭い文章¹と、何首かの自由豪放な——詩の題名は忘れたけれど、またあるいは批評として適切ではないかもしれないが、読んだ印象は確かに“自由豪放”な、——新体詩を読んだことがあります。僕はずっと以前から君を慕ってやまないのです。もし、僕が、純潔無垢の少年だったら、僕に自分の穢らわしさを恥じる苦しい心がなかったら、すぐに白華に紹介されなくても、きっととっくに自分から名乗り出て、東京まで君を訪ねたと思います。しかし、寿昌兄！おお！僕の自ら犯した罪悪は、結局は君と僕の間乗り越えることのできない壁を作ってしまいました。白華兄への手紙の中で、自分の身の上話を書いた一節【補注3】は、夕暮れの靄から透けて見える遠くの山、顔を隠すベールの下が目鼻にすぎません。今、僕は白華に手紙を書いたとき、はっきり明快に僕自身の穢らわしい所を全部白状しなかったことを深く後悔しています。僕の Romantic²な天性が災いして、わざとあんな風に言葉を濁し、巧みに自分を隠し、自分も、人も騙したのです。彼、白華兄は結局は僕の嘘にだまされたのです。

寿昌兄！僕のあの幾つかの旧体詩、恐らく君も目を通したことでしょう。それらの前に横たわる夕もやを払いのけ、顔を覆うベールを脱ぎ捨ててから、僕は、僕と僕の愛を君に赤裸々に告白しましょう。

僕の愛する彼女の名は安娜【アンナ】³です。日本人です。彼女の父は牧師です。彼女はアメリカ人の Mission-School⁴を卒業したあと、すぐに慈善事業のため、自分の人生を犠牲にしようと志しま

した。そこで家族を捨てて、仙台から東京に逃れ、京橋区にある聖路加病院（今は恐らく国際病院という名に変わっています）で看護婦になりました【補注4】。民国五年六月、僕の友人の陳龍驥【補注5】という人が、一高に入学後、肺病になりました。入院先は杏雲堂から聖路加へ、また聖路加から養生園へと移り、その年の八月一日に養生園で亡くなりました【補注6】。当時、僕はまだ岡山の六高に在学中でした。夏休み中に、東京へ行き、友人の病気を見舞いました。聖路加病院で長く治療しているのに、病状が日ごとに変り、いつまでたっても改善が見られない様子を見て、友人に養生園へ移り、北里病院で治療するよう勧めました。友人はそのときすでに身体を起こすことさえできなくなっていました。彼が同意したので、僕は彼と同じ患者用の寝台車に乗り、転院しました。彼が車の中で寝こんでいて、車輪の振動に揺られながら、絶えず空咳をしていて、その大理石のような青白い顔色に咳き込むたびにピンクの血の色が浮かんだのを覚えています。涙を含んだ利発な目には、無限の希望が潜んでいて、ただじいっと僕だけを見ていました。ああ！彼の可哀想な様子、今になっても、——僕は生涯忘れることがあります。彼のあの無限の希望は、いったい何処へ行ってしまったのでしょうか？友人が亡くなった後、聖路加にまだ彼のレントゲン写真がおいてあり、僕はそれを取りに行きました。僕はそのとき偶然に、はじめて僕の安娜と出会ったのです。彼女は、友人のレントゲン写真を見つけたら郵送すると約束してくれました。そして、友人の死を聞いて、涙を流しながら、僕を慰める言葉をいろいろかけてくれました。寿昌兄！正直に言いますが、はじめて僕の安娜と会った時、彼女の顔に不思議に清らかな光が見えたように感じ、——しかし、今はもう消えています——肅然と尊敬の念が浮かびました。それから一週間が過ぎ、友人の葬儀などの後始末が片付いたところに、安娜が友人のレントゲン写真を送ってきました。僕を慰める長い

1 田漢が『少年中国』第一巻第一期に発表した『平民詩人ホイットマンの百年祭』を指す。

2 英語：ロマンチック

3 即ち郭安娜で、本名は佐藤をとみで、一八九四年に生まれ、仙台の人である。なお、補注4参照。

4 英語：ミッションスクール

英文の手紙が添えてあり、宗教的な Resignation¹の教えがたくさん書いてありました。寿昌兄！僕は当時、本当に一種の bitterish 的な sweetness²を感じていました！神様が僕のことを憐れみ、僕が親友を亡くしたのを見て、一人のしとやかで、美しい親友を送って、僕の心の空虚を補って下さったのだと思ったのです。僕たちはその時から、手紙をやりとりし、そして兄と妹の契りを結びました。八月から十二月まで、彼女はずっと東京に住み、僕は岡山にいました。僕たちは千里を隔てて、ただ手紙だけで心の交流をし、毎週決まって平均三、四通の手紙をやり取りしました。当時、僕はあることを思いつきました。僕の安娜が仕事に献身すると誓ったからには、看護婦になるだけでは、彼女の目的を達すには十分とは言えないだろうと思ったのです。そこで僕は彼女に改めて女子医学校に進学するよう、僕の一人分の官費留学費用を二人で使うから、と勧めました。市谷の女子医学【補注7】は毎年三月に入試があり、入試期間も迫ってきています。しかし、病院に勤めながらの生活では、彼女が受験準備する暇がありません。十二月の年末休みに、僕はまた東京へ行ってきました。そこで、病院の仕事を思い切って早めに捨てて、岡山に来て僕と同居しながら、受験の準備もしてみたらと勧めました。ああ！寿昌兄！僕は結局僕のひ弱な魂に自信を持ちすぎていました！私たちが同居してから間もなく、僕の魂はついに一敗地にまみれてしまいました！僕の安娜もついに僕がダメにしてしまったのです！

一昨日の夜に前記まで書いたところで、頭痛がして耐え切れず、筆をおいて、時計を見るともう十二時になっていましたので、すぐに寝ました。昨日の夜、その続きを書こうと思ったのですが、白華が『少年中国』を数冊送ってくれたので、暫らく読みふけり、また深夜になってしまいました。今日

は日曜日ですが、白華がファストの Prolog imHimmel の段落を訳してくれというので、午前中にそれを訳しました。残していた原稿を君にも送りますので、目を通して下さい。

僕も一人の親友を君に紹介したいです。彼は苗字が成、名前は瀬、字は仿吾³。この人を知っていますか？彼は東大の造兵科へ入学し、現在「戸塚町字諏訪八二、月印精舎」に住んでいます。大変誠実で朴訥な青年です。詩についてもなかなか研究していて、新詩の著作も幾つかがあります。彼も最近くれた手紙の中で、とても寂しい、ともに論議し談話できる人は居ないと言っています。もし君に暇があれば、彼とつきあっても、彼が君を失望させることはけっしてないと思います。ただ、彼は本当に素朴、口下手な人で、恐らく無口でいることが多いのですが、もし長く付き合っていけば、きっと彼の性格を知り得ることでしょう！

僕自身の紹介はまだ終わっていないので、再びここから続けて書き補いたいと思います。

僕が僕の安娜をダメにしてしまった後、彼女もその後何ヶ月間か女医学校に通いました。ただ僕が犯した罪が、早くも具体的な形で現れてきました！彼女の学校生活も、やむを得ず路の半ばでやめなければならませんでした。今、私たちの息子はすでに3才になります。僕の息子は、僕が犯した罪の現われではありますけれど、私には確かに一つの純潔無垢な天使に思えます。昨年十二月十二日に満二歳になった時、僕は一首の詩で祝いました。

和児！（僕の息子の名前は、和生です）

君はもう満二歳になりました！

³ 成仿吾(1897－1984)、湖南新化の人。作家、文学評論家、教育家。1916年に東京帝国大学に入学。1918年から郭沫若、郁達夫などとの交流が始まり、創造社の発起人の一人。小説詩歌などの合集である『流浪』、文学批評集『使命』などを著す。【郭沫若とは六高の同期で、同じ下宿にいたこともある。をとみたち郭沫若の家族が終生頼りにしていた友人である。】

¹ 英語：宿命。運命と諦め。

² 英語：苦味を帯びている甘味。

この二年間、君が父から受けた狂気の怒りは、
本当に沢山ありましたね！

君はよく泣く子で、父は手のひらで君を打ち
——力いっぱい君を打ちました！

打った後、今度は自分で自分を打ちました：
痛めつけたかどうかを知りたくて。

こんなふうに君を痛めつけたことが、
本当にどれだけあったか分かりません！

和児！今日、君はついに満二歳となりました！

父の狂気の状態は、
やはりまだ改まっていません：

昨夜僕に詩興が湧いて来た時、

君も父の傍で歌ったり吟じたりしていたよね；

父はあいにく君のその天使のような純潔無垢な
歌声を恨んでいたのです。

何回君を叱ったか知れません！

とうとう君はガッカリして母の傍へ行って眠ってし
まいました。

和児 —— 僕のかawaiiそうな息子！

僕は今日が君の誕生日であることも忘れていま
した。

もし早く知っていたら、昨夜、あんなに君をひど
く扱ったりしてはいけなかったのだ。

和児！父の罪惡を赦して下さいね！

和児！君はすべての菩薩のご加護を受けてい
たんですよ！

君が災いも難儀もなく、満二歳になりました！

和児！君が一首の詩のように自然に成長してく
れますように願っています！

僕のこの代物は、僕が筆にまかせて涙と一緒に
書いたものです。子供は僕よりも、ガンジス河の
砂の数の数倍も神聖です。僕に彼を打ったり、叱
ったり、怒ったりする資格などがありますか？しか
し、何により僕の息子は賢く美しく可愛い。彼の
将来の一生が、僕のように泥沼に陥らないように
望むだけです。

僕の罪惡が、もした恋愛の神聖を破壊しただ

けなら——単刀直入に言って、もし男女の私通だ
けのことであるならば！僕もこんなに自分を責め
ることもしません。だがもう一つ言い出せない苦痛
があります。民国二年の時、僕の両親はすでに僕
を結婚させており、僕の童貞は早くも自動的に壊
されてしまっていたのです！結婚して間もなく、家
を出ました。民国三年の一月には、すでに日本に
来ていました【補注8】。僕の心中の無限に大きな
欠陥は、とつくに補填する余地もなくなっていまし
た。思いがけないことに僕は僕の安娜と出会うこと
ができました。最初彼女と付き合った時に、僕が
結婚している人間だということは、彼女は知ってい
ました。だから僕も結婚していることを頼みに、彼
女と同居する勇気がありました。ああ！ついに彼
女をダメにしまいました！以後のことは、これ
以上述べる必要はないでしょう。

この長編を書いてきましたが、まるで、死刑の判
決を待っている囚人のようです。君は人格の公開
が必要だと言いましたが、僕は公開でする人格な
どほとんどありません。君は君が不良少年だと言
いましたが、僕は、まるっきり一つの罪惡の精髓
です。だから、僕は僕たちの間には、一つの超え
られない壁があると言ったのです。僕のような人
間のことを、君はその人の「弟」になる気がありま
すか、僕のような人でも、君の「兄」になる資格な
どありますか？【補注9】どうぞ早く死刑の判決を
下してください！

郭沫若 九、二、一五

【民国9年、大正9年、1920年】

その2

寿昌兄¹：

恐らくきっと雨になるだろう、

早く登って行こう！

濡れた山道が

僕を中腹の寺まで導いてくれた、

¹ 原書初版では、手紙の受取人の名前が漏れて
いた。

梅花の景勝地だという。
おお、たまり水の池！
何匹かの泳いでいる魚が
僕に囁きかけた：
「陽春の便りはまだない、
梅花はまだ開く気がない。」

寺内の銅馬
まだ夜露の湿りを留める。
ドバトの群れがくうー、くうーと悲鳴をあ
げる。

ドバトたち！君たちにどんな苦しみがある
のだい？

口笛の音が流れている、
山泉が流れている、
僕は山路を進んでいく、
僕は、山の上に登って行きたいのだ。
僕は、もうすぐ山の上に上る。
山頂は、別天地だぞ！

血潮が沸騰しはじめた！
山路は半分まで来たぞ！
山路は濡れてねばねば、
僕の下駄にくっつき、下駄が脱げた。
泥の上に足跡が残り、
足の上には黄色い泥がついている。

足の上の黄色い泥よ！
どうか足にちょっとだけ自由を返して、
僕を山の上に登らせてくれ。
君とは暫らくの別れだけれど、
僕の形骸は必ず君に帰すよ。

おい、泥の上の足跡よ！
君は僕の魂の象徴みたいだな！
君は自分で泥まみれになったな、
君は、自分で人に踏みつけられている、
おい、僕の魂！

君も早く山頂へ登れよ！

口笛の音が流れている！
山泉が流れている、
木を伐る音がパチンパチンと響いている。
山の中の人家にも早朝から鳥の鳴き声が響
いている

これは、Orchestra ではないか¹？
指揮者よ！どこに隠れているんだ？

ああ！
四面すべて白雲、
四面すべて山嶺、
山嶺は実は登り尽せないのだ！
前方の山麓の道を、二人の人が歩いている、
どうやら一人は男、一人は女
兄と妹のようだ、
男は一束の柴を背負っている、
女が抱いているのは何だろう？
男は、道端で休んでいる、
女は、兄の傍に立っている。
おお、筆には描けないほどの　なんと素晴
らしい絵画！

山頂までは、僕一人で登らせてもらおう
僕は今度は耐え難い悲痛におそわれた、
僕の安娜（アンナ）！僕の和ちゃん【息子
の名前】！

お前たちは家の中かい？
お前たちは町の中かい？
お前たちは僕のことを思っているかい？
恐らくきっと雨だろう、
僕は帰って行かなければいけない。

この詩は、先月の末に「ひとり太宰府に遊」

¹ 英語、『沫若文集』版では作者の訳は「交響楽
団」である。

んだ時に作ったものです¹。僕はまさしく君の話の言ったように朝、山に登り、夕べに、谷に落ちるような人間です。僕の靈魂は長く自由と責任の間で、時には海洋を謳歌し、時には大地を賛美していました；僕の Ideal と Reality は長く調和の道筋を見つけ出せないでいます²、今後僕の活動も、この二つの調和の上に築いていくよう努力しようと決めています。前回白華兄への返事でもこう言いました。

「僕には、Augustine, Rousseau, Tolstoy 【アウグスティヌス、ルソー、トルストイ】のような生まれ持った才能がなく、『懺悔録』を書いて赤裸々に世に公開することのできないのが残念だ。」【補注 10】もし、君が僕たちのことをモデルにして、『沈鐘』のような劇を書いてくれたら、君は僕の代わりに僕の背負っている莫大な負担を軽減してくれるでしょう！第六高校に僕が最も敬愛するドイツ語の先生で、立澤剛【補注 11】という人がいます。昔、僕は自分の身の上話を立澤先生に少し話したことがあります。先生の方も僕を題材にして、Novel を書きたいと言いました³。恐らく先生のこういう話も冗談だったと思います。たとえ冗談ではなくて、本当に小説が書けたとしても、先生は所詮異国の人であり、僕の懺悔の心を痛切に表現できたとは限りません。だから僕も先生に十分期待していません。ただ、君の劇曲には大いに期待しています。単なる冗談で終わりにしないほうが良いと思います【補注 12】。

18 日に君からの手紙を受け取りました。一昨日午後一時頃のことでした。僕は、恐らく君からまもなく死刑宣告書がやってくるだろ

うとずっと気になっていました。一昨日午前中には君からの手紙が見当たらず、少しガッカリしていました。午後、薬理学実験室に入りましたが、とにかくじっとしていられない感じでした。また控え室まで行ってみると、おやおや！死刑宣告書がきているのです！僕が、震えながら封を切りますと、まず僕たちにくれた絵を描いた一枚の紙切れが見えました。はは！寿昌兄！君は本当に情愛の深い人です！君は無理やりに僕を笑わせてしまいました！その時の笑顔は恐らくその絵の中の男子とは、どうしても互いに判別が付きません。僕は急いで君の手紙を懷に押し込んで、走って実験室まで戻りました。実験をしながら、君の手紙を読みました。何回も読み直し、最初から最後まで何回読み返したか分かりません。田寿兄！僕の愛すべき賢い弁護士さん！しかし君は、僕に害を与えてしまいました！あの日の実験は、一つも成功したものがありません、全部失敗でした！しかし、僕はとても嬉しく、本当に言い表せないほど嬉しかったです。まるで死刑囚が赦免になったようでした。四時のベルが鳴ると、僕はすぐ家に帰りました。君が僕たちにくれた絵を安娜に見せました。彼女も笑って本当に楽しそうでした。ただ大声で「oya ma! おや、まあ」「おや、まあ」と言うだけでした⁴。彼女に君の手紙を翻訳して聞かせますと、今度はまたとぎれとぎれに「死刑を宣告する裁判官が逆に弁護士になってくれましたね！・・・実に情の深いお方です！・・・」【安娜の言葉は原文カタカナ、その後にローマ字で日本語の音声を表記】⁵このほかにもいくつかの感謝の言葉を言いましたが、もうはっきり覚えていません。君に正直に申しますが、僕たちはその夜、嬉しさも抑え切れず、普段より二杯多く麦飯を食べまし

¹ 『登臨』を指す。最初、1920 年 3 月 6 日の上海『時事新報・学灯』に発表された。副題が『一名独游太宰府（別名「ひとり太宰府に遊ぶ」）』である。

² 英語：理想と現実。

³ 英語：小説

⁴ 「おや、まあ」は日本語。

⁵ 原文日本語。

た！

その晩、すぐにでも君にお礼の返事を書きたいと思いましたが、ただ、昨日と今日二日間は、医化学の実験があり、もし教科書を復習しなかったら、またすべて失敗して、笑いものになります。仕方なく僕の自由を暫らく責任の権威の下に屈服させました。明日の授業は、九時からですが、しかし今夜は、もうこれ以上屈服できなくなりました。ただ、寿昌兄！僕にもう少し補足の葉書を送るように言われましたが、その必要もなくなるのではないかと思います。君が春休みに僕たちの所に来られたとき、僕たちは、あまり美味しくはありませんが、真心こめた「ご馳走」を準備し、君をもてなすつもりです。絶対に誤解しないで下さい、君にご馳走するのは、僕たちの利己的考えから弁護士先生にお礼の酒宴をするつもりではありません。逆に、替わりに僕たちは君の将来の結納の酒宴を準備するつもりです。

ゲーテについて、僕にも具体的な研究などありません。翻訳の方はまだできますが、感想と批評に至っては、自分の力もわきまえないそんな無礼なことをする勇氣はありません。僕たちは、同士を多く集め、「ゲーテ研究会」のようなものを組織してみることができると思います。まず彼のすべての名作と傑作、彼についての著名な学者たちの研究を、全部翻訳紹介し、一つの系統的な研究をするのです。ゲーテの研究が終わったら、また別の対象へ移行して行きます。僕のこの考えを君はどう思いますか？お聞きかせください。倣吾君の所には僕がすでに手紙で知らせました。もし、「研究会」の成立が可能になったらその時、彼も会員になると思います。僕たちが、一、二年の時間をかけたら、恐らくゲーテのすべてを中国へ移植することができます！もう十二時になりました！続きはまた。

Gute Nacht！¹漱瑜女史【田漢夫人易漱瑜を指す】に宜しくお伝え下さい。

沫 若 九、二、二五夜。

【民国9年、大正9年、1920年】

その3

寿昌！

今朝大学へ行ったとき、又も君からの長い手紙を受け取りました！学生室の Steam²の傍に手紙を開封し、読もうとした時……おや！一枚の写真もありました！寿昌！君は愛すべきだ、本当に僕の弟のようです。君の風貌は僕の家の実の弟ととても似ています。ただ彼はこんな俊秀には及ばないのですが、僕の弟は、僕が日本に来て二年目に省城【省都】の中学校を卒業しました。何回も手紙で彼も日本に来るように言ったのですが、どうしても来ないのです。それは、一つは、両親も年老いていたので、子供を手放すことに耐えられなかったため；もう一つは、家の経済状況も余裕がないためです。僕の兄弟姉妹は全部で八人です。兄が二人、姉も二人、弟が一人、妹が二人です。二人の兄は、僕が日本に来る前に、やはり日本に長年留学していました。僕のいちばん幼い妹は、一年前にもう嫁に行きました【補注 13】。言うまでもなく早婚の害を受けた可愛そうな人です。しかし、僕の両親に対して³、僕は少しも怨む気持ちになれません！僕の祖父はあだ名が「金剛仏」【補注 14】と言い⁴、豪快で義侠心に富む類の人物で、貧しい人を助け、困っている人を救済することを最も好む人です。そのため家業も落ちぶれてしまいました。僕の父は、小さい頃に商売に職を変えました。——父は私からみて確かにとても可愛そうな天才で、残念ながら生涯、責任の重圧に苦しみ、少しも自由に発展する機会が得られま

¹ ドイツ語。お休みなさい！

² 英語。スチーム。

³ 郭沫若の父親の名前は郭朝沛(1853 - 1939)、母親の名前は杜邀貞(1857 - 1932)という。

⁴ 郭沫若の祖父の名前は、郭明德という。

せんでした:若い頃、家業に奔走し、中年を子供の養育に費やし、晩年になってもまだ僕たちのような親不孝の子供たちのため苦勞しています！わが家の家業は、父一人の手によって立ち直ったもので、僕たち兄弟姉妹八人も父一人の手によって養育されました。僕たちの父の一生の「苦難の歴史」は本当に筆舌に尽し難いものです【補注15】。父は旧医学【漢方を指す】に対して、学ばずしてそれに通じるという Romance【物語】をもっていました。¹郷里の人たちは皆彼を崇拜しており、凡そ彼が出した処方箋のすべては、「優れた効目が神の業のような能力を持っています。彼は医者看板を出したことはありません、お金も取らず、薬を売ったこともなく、しかも漢方の理論も知りません。しかし、彼の処方箋は何時も効き目があり、病気になる人はいつも彼を頼みにしています。恐らく一種の超感覚の精神的な働きが存在しているのだと思いますが、またよく分かりません。もし父が、何十年か後に生まれていたら、また僕達と同じぐらい若さだったら、近代の合理的な実験医学で研究してみたら、父の医学に対する貢献は、たぶん計りしれないものになるのではないのでしょうか？僕の母については、彼女はまるで僕の Augustine's Mother のようです²。彼女の一生の Career ということになるとなお可哀そうです³。彼女は一歳の時にもう両親をなくし——彼女の両親は、貴州の黄平州で陣没したのです。僕たちの母親の父の杜琢章公は当時の黄平州の知事ですが、苗族の反乱により、城郭が陥落し、彼も職に殉じ自殺しました。同時にみずから手で僕たちの母の3歳の姉を斬り殺しました。僕たちの祖母謝氏夫人と僕の母の6歳の姉も同時に身を池に投げ、節義に殉じました。僕たちの母は、全てを劉という乳母に頼り、彼女は僕の母を背負って虎口を逃れ、九死に一生を得ました。二人は長年貴州雲南各地を

流浪し、僕の母が満五歳になった時に、やっと四川に帰ることができました。母は、十五歳のとき僕の家族になり、それから今日までずっと永遠に僕たちの父に忠誠と愛を尽くす賢妻です。父は外で商売をしましたから、僕たちの兄弟姉妹の家庭教育はすべて母の賜です。僕はやっと言葉が話せるようになった頃、母から唐詩の朗読を教わったのを覚えています。それは

落花 相ともに恨む
地に到るも、また声無し
淡々たり 長江の水
悠々たり 遠客の情。⁴

いまでもまだ僕は覚えています——題目と作者の名前は、しかし——あれっ、ちょっと待って……『唐詩別裁』を調べてみましたが⁵、五言絶句の中にはこの一首はありませんね——忘れました。Liliencron の詩の才能説は彼の母親の遺伝だと言います⁶。Gorjkij も彼の文学の天分は彼の母親から得たものだと言っています⁷。もし僕も詩人のうちに数えられるなら、その詩人の遺伝子も確かに僕の母親から来たものです。つまり僕が遺伝学の原則に従って僕の父と母の一族の系統を詳しく分析してみると、僕の遺伝的要素も確かに悪いとは言えませんが、しかし、ただ僕の遺伝子の下でだけこのような Varietaet の怪物が生ま

⁴ この詩は、唐代詩人韋承慶の『南行別弟』:「澹澹長江水、悠々遠別情、落花相与恨、到地一無声」【澹澹たり 長江の水、悠々たり 遠別の情、落花 相ともに恨む、地に到り、一の声無し】による。

⁵ 清代詩人沈德潜（1673-1769）が編集した唐詩の選集である。

⁶ デトレフ・フォン・リーリエンクローン

（Detlev von Lilinecron、1844-1909）は、ドイツ詩人、作家である。

⁷ ゴーリキー（1868-1936）、ソ連作家。自伝体小説の『マカル・チュドラ』、『チェルカシュ』、『フォマ・ゴルデーエフ』の三部作と『母』を著す。

¹ 英語：ロマン

² 英語：オーガステインの母。

³ 英語：経歴。

れて来たのです¹！環境がよくなかったせいにするのでしょうか？僕は一生のうち、父のような困窮、母のような苦難を経験したこともありません。僕と付き合う友達もみんな僕より努力し、向上しています。僕たちの国の魂も僕に冷淡ではありません。僕はまるっきりく時代の寵児、神様の愛児、Samson の自らまいた悪の種同然なのです²。

昨日、有島武郎氏の「三部作」を買いました³【補注16】。僕は「Samson と Delilah」が一番いいと思いました——昨日夜ここまで書いて、また有島氏の原作を最初から最後までもう一回熟読してみました。確かに一篇の象徴劇だと思います。この作品は……僕は書きながら、再び目を瞑って想い描いてみるのですが、眼の前に電子より微細な数え切れない粒子が激しく揺れ動き、巡回しながら、無数の「??? ……」を書きだしています。読んだ後の印象が、有島氏が創作した時の真実の心理と近いものがあるかどうか、それは無数の疑問符をつけなければいけないことになります……描写されているのは、霊と肉の激戦、真と偽の競い合い、Ideal【理想】と Reality【現実】の衝突です。サムソンを霊的世界の表象とし、デリラを肉欲的世界の表象としています。サムソンは Isreal イスラエルの子孫であり⁴、エ

ホバへの天縦者【神に身を献げし者】Nazarite であり⁵、無双の神的な力を持つ超人です。彼は、一人の妓女——敵国 Philistine 人で、海魔大弓・Dagon【ダゴン：ペリシテ人、後にフェニキア人が崇拝した半人半魚の神】の後裔——デリラを溺愛しますが、⁶ついには彼女に裏切られ、神的な力も失い、盲目にされ、牢屋の苦難にも見舞われました。後に次第に悔悟し、神的な力もだんだん回復し、ダゴン神殿を根元から倒しました、肉欲世界の虚偽の結晶、デリラ、ペリシテの司祭、群伯【ペリシテの指導者たち、貴族階級の人々】、群衆等のすべてが滅びてしまいます。サムソンの肉体と彼の侍童——「Adadakai Kokoro」も共に滅びます⁷。劇は三幕に分かれます。第一幕は、肉欲世界の虚偽の黒幕をあばき出し、デリラの口からこう言わせます：

「十五日・・・ただ十五日。私はそれより一刻も延ばしていただくのを拒みます。私はその時サムソンの力の源をつきとめて、その泉を枯らして御覧に入れます。若い牡獅子のやうなサムソンを子羊よりも力なくしてお目に懸けます。」

サムソン——超人——の「力」の源泉は即ち「誠実」です。天縦者となる第一の条件は、母体が肉や魚などなまぐさものと酒を口にしないこと、第二は、子供の体は髪の毛を切ら

¹ ドイツ語：変種。

² 英語：サムソン。『聖書』の中では、古代イスラエルのリーダのひとりで、怪力の持ち主として有名。デリラという女性に、自分の力の源泉は髪の毛にあると告げたが、この女性に密告され、敵が彼の眠っている時に、彼の髪の毛を切り剃り、彼の目もえぐり出され、捕らわれてしまう。しかし、一旦彼の髪の毛が生えてくると、彼は、ペリシテの神殿の柱を押しつぶし、敵に勝つ。この話は『旧約全書・士師記』第16章に見える。

³ 有島武郎（1878－1923）、日本の小説家。長編小説『或る女』と中篇小説『カインの末裔』などを著す。ここで言及している「Samson と Delilah」、即ち『サムソンとデリラ』は、彼の劇曲三部作の一つである。

⁴ 一般的にイスラエルとして訳している。

⁵ エホバ（Jehovah 或いは Yehovah）と訳す。ユダヤ教の神の名前のキリスト教による読み方である。Nazarite は、今ナザレ人と訳す。ナザレはイエスの降誕の地であり、現在イスラエルの境内にある。

⁶ Philistine、ペリシテ人。海魔大弓（Dagon）とは、古代ペリシテ人の神であり、その姿は魚の尾を持つ人の形である。サムソンを裏切ったデリラはその後裔であると伝えられる。

⁷ ラテン語の日本語読み。【アダダカイ・ココロ（暖かい心）の意味】。

ないことです。これらはただ誠意を表示するための筈【約束、手段】であることに過ぎません。十五日後の第二幕は、ソレク谷¹にある「デリラの家」でサムソンが Dlemma 【Dilemma.ジレンマ、窮地の意】²に陥れられる場面です。初めはサムソンの母が諭しに来る場面で、こう言います。お前の使命は、イスラエルの子孫たちをペリシテ人の虐待から救出すること——肉欲の墮落の中から靈魂の生命を救出することだ、と。分れに臨んで、さらにサムソンに言います。「お前は私の一生の願ひを無駄にはしはしまい。私は何時死んでしまってもいい。唯私はお前を本当に幸福にしたいのだ。……私はもうお前が強い葡萄酒の酒に酔ひ倒れるのを見てはゐられない。私は月の光を便りに唯一人ゾラ Zorah に帰って行くであらう。而して一人でお前のためにエホバに許しの祈を祈って、夜を明かせよう。サムソン！お前心が素直になってエホバと和らぐ事が出来るやうに……私はもう行きます」

母の前でサムソンはただ一面の靈の閃きでした。母親が去った後、デリラが彼の前に出てくると、彼はまたも一溜りの肉味噌になってしまいます。彼は母親が彼に送ってきた「一人の純潔無垢の靈魂」である Timnath³の少女を——鞭で打ち、追い払いました。彼はついに力の源泉を漏らしてしまいました。彼は切ったことのない髪の毛——誠実の命の綱を——デリラによってついに剃り落されてしまいます。その後、忽ち彼は敵国の囚人となり、両眼ともえぐりとられてしまいます。

第三幕は、「ダゴン神殿」です——一つの地獄の象徴です。サムソンの懺悔の心はすでに深く、髪の毛もすでに生え揃い、神力も復元しています。彼は大声で叫んでいます。「誠こそは力だ！」彼

が、悪魔の群れの前で、靈魂の余興、力のダンスをしようとした時、彼の母親がまた弔問に来ます。彼は母親に向かって言います。

母上！私は知りました。知りましたこの力の何であるかを。エホバは私を見捨て給わぬ。サムソンはサムソンになった。私は牡獅子のやうに振ひ立つ力を心に感じます。ここは、敵人の間です。安全な場所ではありません。私の演技を母上が見られるのも私は忍ぶことができません。…

彼の母親はサムソンが Misuborashii【みすぼらしい】と言って、手製の白い絹の衣を羽織ってやります【補注 17】。慈母の愛は、わが子の穢れのすべてを清めます。母親が去った後、サムソンは鉄棒を持ちながら、暫らく乱舞します。そして、「疲れた！而して渴いた！」と言って、司祭の手から一杯の葡萄酒を受け取り、こう言います。

春になった。而して去年の秋の葡萄酒は暗い窑室【酒を醸す穴倉】に醸されて酒に変っている。

酒を飲み乾した後、彼は彼の侍童に手を引かれ「ダゴン神殿」の二つの巨大な支柱まで行きます。

——この大支柱は恐らく「肉欲」と「虚偽」の二つを象徴する足なのだと思います。彼は神力を尽くし、その二本の支柱を抜き倒します。デリラが走って来て彼の足元に跪きます。すべてのものがともに滅びます。この災禍から免れたものはただ二つでした。一つは、即ちティムナスの少女——純潔無垢の靈魂で、もう一つは、即ち慈母の愛です。

寿昌！この手紙はまた長くなりますので、ここまでにします。僕はまた君が送ってきた『ゲーテ研究』翻訳原稿を受け取りました。それを手にしながら何回も読み返してみまし

¹ ソレク谷、『旧聖書』にある地名。

² 英語：苦境。

³ ティムナス、『旧聖書』にある地名。サムソンはかつてこのファリサイ人の娘を娶った。

た。僕の靈魂は早くも陶然として沈酔してしまいました。僕はもうこの手紙を書き続ける気がなくなりました。前に白華への手紙の中に言ったように、「願う所は則ちゲーテに倣うことなり」です【補注18】。僕もここで、ひとまずゲーテの詩『純朴な心を持つ人へ』【ドイツ語の題と原詩を略す】を借りて僕のあいさつとします¹。

沫 若 九、三、六。

【民国9年、大正9年、1920年】

補注について

本文は『三葉集』に収める、郭沫若から田間あて書簡3通の全訳である。底本、注釈は従来と同じで、『三葉集』（田漢・宗白華、郭沫若著 上海書店刊行1982年6月復印）を底本とし、脚注部分は『郭沫若全集』文学篇 第15巻（人民文学出版社 1990年7月）の孫玉石（北京大学教授）注に従った。ただし、一部内容を改たり、増やした箇所があるのも、前回と同様である。また原注では外国語原語に対しても注が加えられている（例えば「romantic:英語、浪漫主義」など）が、それも忠実に訳した。

本文中、背景の説明が必要なものを以下に【補注】として掲げておく。補注のほかに、本文を含めて訳者注として書き加えたものは【 】内に記した。

【補注1】田漢が前便で「（宗白華から自分

¹ ドイツ語、郭沫若は、また『厚意の人へ』と訳したこともある。全詩は二節で全部で十二行である。ここは第二節からの引用。意味は
僕の困惑、僕の努力、
僕の煩悩、僕の生存、
すべて僕の花束の中の幾つかの花弁で
僕の晩年、僕の若き頃、
僕の過失、僕の道義、
すべて美しく僕の詩歌の中に表現してある。

はまた新しい君【田漢】に似た友を得たと書いてきた」と紹介した上で）——白華は手紙でそう言うけれど、結局僕があなたのようであるかどうかは、また別の問題です」と書いていることを指す。（『郭沫若全集』文学編第15巻、34頁）

【補注2】全集第15巻収録の『三葉集』にはこの文を含む手紙はない。

【補注3】本連載1（「東海大学総合経営学部紀要」第5号、2012年）53頁。

【補注4】安娜は本名佐藤をとみ、1895年宮城県大衡村の佐藤家（伊達藩柳生流剣術指南）に生まれた。14歳でバプチスト系の仙台尚綱女学会に入学、1914年首席で卒業、学校に残り事務を手伝ったが16年東京に出て当時の京橋区にあった聖路加病院（のち聖路加国際病院）で看護見習いとなった。聖路加は米国人の経営で外国人の来院も多く、英語が必須だった。父佐藤卯右衛門（1867－1958）は日露戦争に従軍、除隊後横浜の神学校に学び、卒業後バプチスト派の牧師となって故郷で布教に当った。

【補注5】陳龍驥は四川省出身。郭沫若と同省の人で、一高特設予科の同窓生。

【補注6】杏雲堂は杏雲堂醫院（後の杏雲堂病院）。1882年創立。第2代の佐々木政吉が結核の名医として多くの患者を集めていた。養生園は1893年北里柴三郎が設立した日本最初の結核サナトリウム土筆ヶ岡養生園であろう。北里は1917年には付属病院を設立する。下文の北里病院がそれである。

【補注7】東京女医学校（1900年設立、現在の東京女子医科大学）のこと。1912年東京女子医学専門学校（東京女子医専）に昇格するが、郭沫若たちは「女子医学」「女医学校」などと呼んでいたのであろう。

【補注8】郭沫若は佐藤をとみと結ばれる前に婚約と結婚を経験している。まず10歳になる前に婚約した。だがこの婚約は郭沫若14歳、まだ小学在学中に相手の女性が亡くなったために解消された。次はこの手紙に書くように1913年の張瓊華との結婚である。結婚にいたる事情や結婚式当日および妻の実家で祝宴を行なったことなどについては、「黒猫」（『全集』第11巻）に詳しく述べられている。それによれば、郭沫若が母からの手紙で張瓊華と婚約が決まったと知らされたのは前年10月、

成都の兄の事務所であった。手紙には、遠縁の叔母の世話によるもので、叔母が自分で本人に会ったが「人品好、在読書、又是天足」だった、と書かれてあった。郭沫若は思い悩むが、結局承諾し、13年の旧暦1月15日、沙湾の実家に帰った折に結婚式が行なわれた。だが、話と違い、花嫁の張は纏足で、「猩猩鼻孔」（しょうじょうばな）だった。郭沫若はショックを受け、頭が痛いといって寝てしまう。母親に諭され、当時の慣例どおり妻の実家にも行き、婚事を済ますのだが、妻の家から沙湾に帰って、五日後には成都に帰り、以後、張を妻として扱うことはなくなる。

【補注9】この手紙は田漢からの手紙への返書だが、その田漢の手紙の末尾は「どうかつねに手紙を書いて僕を教え励ましてくださり、僕のことを弟のように扱ってくださいませんか？」となっている。

【補注10】「郭沫若致宗白華」『全集』文学編、第15巻、45頁。本連載『三葉集』その2とその3」本紀要2013年第1号、115頁参照。この手紙は『時事新報・学灯』1920年2月24日、および『少年中国』第1巻第9期、1920年3月15日、に掲載された。

【補注11】立澤剛（たつざわ・つよし：1888-1946）、東京帝国大学卒業後、岡山の第六高等学校に赴任、1912年～1922年在任した。

【補注12】2月18日付け田漢から郭沫若宛の手紙に、自分の恋愛観、結婚観をのべた上で、「この問題を題材に劇を書くつもりだが、君たち二人をあるいは僕のこの劇のModelにするかもしれないよ！」と書いている。（『全集』第15巻、60頁）

【補注13】郭沫若には長兄（「大哥」）の郭開文、次兄（「二哥」）郭開佐（「五哥」）、弟郭開運の兄弟、姉妹には長姉（「三姐」）郭秀貞、次姉（「四姐」）郭麟貞、妹の（「六妹」）惠貞と（「七妹」）葆貞がいた。ただし郭沫若が生まれる前に、姉二人と兄一人が生まれ、夭折している。従って郭沫若は8番目の子供になるわけで、「八兄」とも呼ばれていた。

【補注14】『郭沫若自伝第1巻——少年時代』「我的童年」によればあだ名は「金臉大王」と言ったとある。「左のこめかみに三角形の金色の痣があったからだ」という。いずれも『全集』文学編第11巻、23頁による。

【補注15】郭家は福建省汀州府寧化県の出で、清代乾隆46年（1781）の前に先祖の郭有元が

四川に入った。先祖は貧しく「麻袋二つを背負って蜀に来た」。曾祖父（郭賢明琳）の代に家産を蓄えたが、子孫多く、祖父もまた散財を好んだため一代で零落した。父郭朝沛の代に家業を再興し、田畑、土地、家屋、塩井（塩を含んだ水のある井戸。塩を採取した）を購入した。郭朝沛はアヘンの売買と酒造で財をなしたようだ。なお、郭家の先祖の興亡の歴史と、エピソードについては『自伝』の「我的童年」（『全集』文学編第11巻、特に8-57頁）による。

【補注16】有島武郎『三部曲』は、初版が『有島武郎著作集 第10輯「三部曲」』として1919年12月叢文堂から出版されている。郭沫若は出版後間もなく入手したのである。郭沫若は自分の作詩経歴を振り返って「タゴール式」「ホイットマン式」「ゲーテ式」の三段階があったと述べているが、ホイットマン式の時代と作詩について「あたかも五四の高潮にあった最中で、作った詩は豪放、粗暴を尊び、僕の最も記念すべき時期であったといえる」と書き、ホイットマンとの出会いは、大学二年のときで、「何気なく有島武郎の『叛逆者』という本を買」い、そこにホイットマンが論じられていたのがきっかけだったと書く。「そのため僕はまたホイットマンの『草の葉』と接近しはじめ、彼の豪放な詩の調子が僕の聞えきった詩作熱に暴風のような扇動をうけさせた。僕の「鳳凰涅槃」「お早う」「地球、わが母！」「匪徒の頌」等の詩は、すなわち彼の影響の下に作りあげたものである。」（「創造十年」松枝茂夫訳、岩波文庫による）「三部曲」を買ったのも彼が有島を介してホイットマンの影響下にあったからであろう。

【補注17】有島の原文にはこうある。「サムソンの母——お前は人々の前に見すばらしく見える。これは私がお前の為に縫った白絹の上衣です。（後略）」「サムソン——〔涙ぐみ〕これは王が着るにもふさわしい上衣です。私にそれを着せてください。」

【補注18】郭沫若の白華宛1920年2月16日手紙。本連載、「その2とその3」『東海大学経営学部紀要』第1号（2013年）、116頁参照。

* 郭沫若文中の難解な中国語の語彙について、熊本学園大学・石汝傑教授のご示教を賜った。ここでご厚意に感謝申し上げます。

解説:本文の翻訳について(岩佐 昌暲)

本文は、前述したように、郭沫若から田漢あての手紙 3 通の全訳である。本来田漢から郭沫若あての手紙と合わせて一体となるべきものだが、その翻訳は今後の課題としたい。

3 通のうち、その 1 は宗白華の紹介で届いた田漢からの手紙に対する返事である。自分が田漢をどんなに高く評価し、はやく知り合いたかったかを述べていて、郭沫若が新しい知己を得て喜んでいる気持ちが行間から溢れていると言っているだろう。同時に、この手紙は郭沫若にとって一つの賭けとでもいうような要素をもっていた。彼は、田漢に自分について紹介するのだが、それは初対面（かれら二人はまだ顔を合わせてはいないが、この手紙のやり取りは初対面に等しいものだった）の人間への自己紹介とはかなり違うものである。

彼はいきなり、自分は早くからお目にかかりたいと思っていたのだが、「自分自身が作り出した罪悪」のためにあなたとの間に越えがたい壁ができていて、お会いできなかった。

（あなたは宗白華から私のことを聞いているだろうが）自分は宗白華が知っているような人間ではない。それよりずっと悪い人間なのだ「白華兄は私に騙されているのです」——こう言って郭沫若は自分が佐藤をとみと性的交渉をもって、彼女の純潔を踏みにじり、子供まで生まれたこと、それだけではなく、中国には妻がいて、童貞ではないこと、などを告白し、自分のような人間の「弟」になれるか、「兄」と呼べるか、と問いかける。

1920 年代初頭の中国（日本も同じであったろう）の一般的な倫理観念では、このような行為は人間失格と見なされていていい、非道徳的なものであった。郭沫若は、それを敢えてさらけ出すことで、田漢と友人になれるかどうかを試したのである。この手紙を「賭け」だ

ったという所以である。郭沫若が田漢からの返書を「死刑宣告書」と書くのも、田漢がそういう自分を受け入れてくれるかどうかを「死刑の宣告をまつ死刑囚のように」待つからである。

その 2 は、「登臨」の詩から始まる。手紙の趣旨は、田漢が自分を受け入れてくれたことへの感謝である。田漢はその 1 への返事（2 月 18 日）として「人間には神と悪魔が共存して戦っている、悪に打ち勝つ人は君子であり、人だ。悪に勝てない人は小人であり、獣だ。人と獣の関係は、ほんの僅かの差を争うかどうかで、中間はない。人の一生は線形で表せば、波線にすぎない。朝は君子で山に登る（Λ）が、夕べには、小人で谷に下りる（V）。最後まで一直線で行けるとする者はめったにない。人が自分の人格をつくるには「大いに高い目標を目指す」こと、すなわち深い谷から高山の頂きに上ろうとすることが必要。深谷に安んずる者は「悪の精髓」で、必死の力で高山に登ろうと努める者は、「懺悔の人格」だ。世の中には生まれながらの人格者は少ない。だからこそ「懺悔する人格者」が尊いのだ」という趣旨のことを書いた。「登臨」は 1 月末に書かれたものだが、あたかも田漢の考える「懺悔する人格者」の詩のように感じられる。

この手紙は、田漢の返書を読み、彼が自分を受け入れてくれ、心の重荷を卸したことを喜び、をとみとともに田漢に感謝する内容である。

その 3 は、ようやく安心した郭沫若が田漢に自分の家族や家系について紹介することと、有島武郎の戯曲を買ってその「サムソンとデリダ」を読み、論評することの 2 つの内容から成る。

これを契機に郭沫若と田漢は親交を深めていき、3 月に田漢が郭沫若を訪ねて博多にやってくることになるのである。（2016 年 10 月）